

はじめに

武蔵野台地に川が貫いている落合地域は、  
たくさんの坂があります。これらの坂をた  
どると、古代から続く人々の暮らしと土地  
の記憶に触れることができます。今回は落  
合の尾根道と妙正寺川沿いの谷道を散策し  
ながら、落合台地の地形と風土を楽しんで  
ください。「高低差ファン」や「坂道ファン」  
にとっても見逃すことのできない魅力的な  
場所です。案内をするのは新宿歴史博物館  
ボランティアガイドです。

### 武蔵野台地の形成について

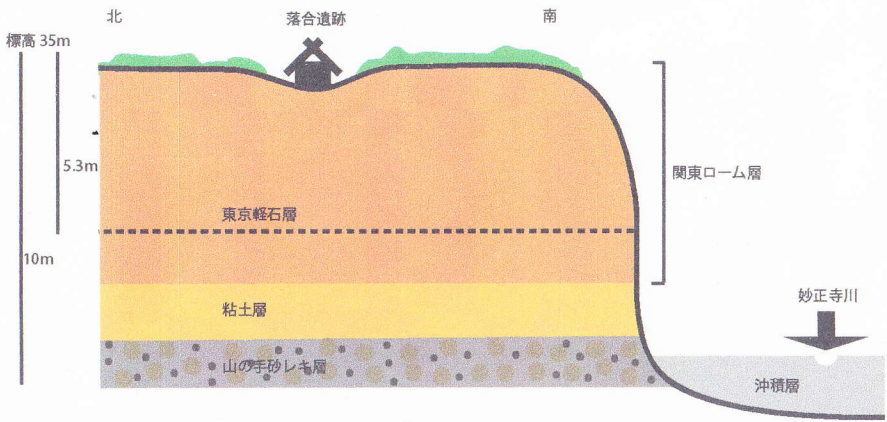
武蔵野台地とは、西は青梅から北は川越まで、入間川と支流の霞川、荒川低地、東を東京低地に南から西を多摩川低地に限られた東西約五〇キロメートル、南北約二〇キロメートルの範囲を指します。

新宿区は、武蔵野台地の東端に位置しますが、その成り立ちは、はるか一三万年ほど前にさかのぼります。地球が温暖化すると陸上の氷が減少するため海水面が上昇し（下末吉海進、縄文海進、など）、寒冷化すると海水面は下がり、陸地が現れ相対的に隆起した状況になります。この隆起と沈降を経て武蔵野台地は形成されていったのです。最終氷期では寒冷化（七万年前〜一万年前）が段階的に進行し、浸食基準面の低下や台地の隆起は段階的に起こり、川沿いには河岸段丘が形成されていきました。武蔵野台地の中で最も古い面が下末吉面で、次に武蔵野面、立川面という順に地形面ができました。区内では、下末吉面は西新宿から神楽坂を結ぶラインより南東側にあり、淀橋台と呼ばれている。北西側の神田川を含む地域に広がる台地が武蔵野面と豊島台と呼ばれています。落合は豊島台に含まれます。下末吉面と武蔵野面では、標高と浸食の進み具合、そして形成時期に違いがあるため、地形的な特徴も異なります。下末吉面は、武

コース

- 西坂
- 霞坂
- 市郎兵衛坂
- 見晴坂
- 六天坂
- 一の坂〜三の坂
- 林芙美子記念館（男坂・女坂）
- 四の坂〜八の坂
- ごりよう坂
- 妙正寺川

中井駅近くで解散



蔵野面に比べて一段高く、台地上の傾斜は緩くなります。そのため川は蛇行し谷が屈曲していきます。また形成時期が古いため、風化浸食がすすみ、小さな谷が多く、結果的に鹿の角のような小さな谷が複雑に入り組んだ地形となりました。四谷の須賀町、若葉町界限の谷が入り組み、坂も様々な方向を向いていて、街を歩くとそこかしこに谷や丘が現れるのは、このためです。一方、武蔵野面は、下末吉面に比べて台地上の傾斜はわずかに急なため川は比較的直線的に流れ、形成時期が新しいため浸食の度合いが低く細かい谷も少ない。その結果、単純で比較的幅が広い谷で、その谷沿いに斜面が長く伸びる地形になっています。斜面が直線的に連なり坂や階段の向きが同じようになるのもこのためです。今回巡る落合の坂や階段は、ほぼ南向き傾斜になつていてこの特徴をよく表しています。

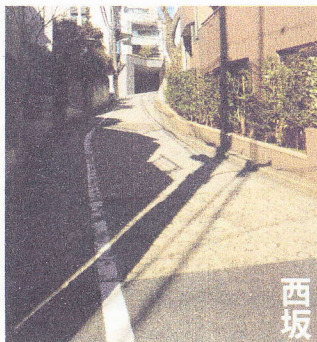
さて、武蔵野台地は昔の多摩川が奥多摩の古い山地を抜けてた青梅付近を頂点として、東西に長く延びて形成した扇状地です。その地層は、上から約八、四メートルの関東ローム層、その下に約一メートルの粘土質ローム層があり、さらにその下に約四メートルの段丘礫層が見られます。関東ローム層は、富士山や箱根などから運ばれた火山灰が堆積したのですが、透水性が良く、降った雨が地中に浸透していきます。ローム層下部が不透水層なため、砂礫層が露出していているところは水が湧きだし、水の圧力で関東ローム層が浸食され谷を形成します。このよに広がった場所は、「谷戸」や「ぼっけ」と呼ばれますが、落合にもこの地名が残っているところがあります。地形と生活が密着していることが分かります。

地形は、自然の作用によるものだけではなく人工的な作用によっても変化していきます。落合では、環状六号線（山手通り）と放射七号線（新目白通り）の開通がその最たるものです。山手通りは区間を区切って部分的に行われ、落合付近は神泉、熊野間で昭和十五年（一九四〇）～一九五〇）年ごろ開通、新目白通りは昭和四二年（一九六七）に開通したことで台地は開鑿され、坂は分断され、現在の姿に変わっていきました。

## ① 西坂

一一二〇m(高低差九m、平均斜度四・三度)

中落合二丁目の坂、下落合駅前巡査派出所のわきを入り、北西へ落合第一小学校の手前まで上がります。この坂は七曲坂とやらんで古道で、もとの落合村と中井村の村境をなしていました。『豊多摩郡誌』は「西坂 新宿道 字本村と字不動谷との間にあり。」としています。明治の末までは道幅がきわめて狭く、雑木や笹が両側におい



西坂

茂つてものさびしかったのですが、徳川公爵家が坂側の台地を買って別荘とし、つづいて近衛公爵もその向かい側を別荘地としたために道幅が拡げられました。徳川邸では、牡丹や菊の花時に一般に公開し、そのときは食物屋の屋台などが出て坂が賑わったそうです。

## ② 霞坂

八〇m急坂（高低差一〇m、平均斜度七度）

中落合二丁目一四番大同特殊鋼社宅の西わきを西南に下る短い坂で、坂上は西坂につながります。『豊多摩郡誌』は「霞坂 大字下落合より小学校前へ開窄したる新坂なり。」とし、大正初年にできた坂道と思われます。坂下がまだ妙正寺川ぞいの一面の水田だったころは、春霞が立つ風景が美しかったといい、『新編若葉の梢』は「この橋（落合土橋）あたりの春の景色、霞んで遠近に雉子の声さへきこえ、若葉の色萌え出で鶯が鳴き、いと麗かである。初夏のころのこの辺を打ち過ぎれば、まづ時鳥の声がきこえはじめる。」と記しています。

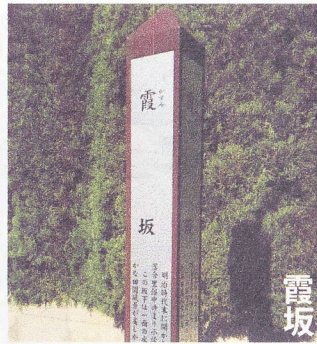
## ③ 市郎兵衛坂

『豊多摩郡誌』に「市郎兵衛坂 中井道 字不動谷と前谷戸との間にあり。」とあります。「不動谷」は西坂上の学校前道より西南の地域で、中落合二丁目の西南部。「前谷戸」は中落合一丁目と中井二丁目東北部一帯に地域に相当します。市郎兵衛坂はこれらの間を通る旧中井道の途上の坂道です。当初、中落合二丁目から清風園前にくだる坂道でしたが、昭和四四年に開通した新目白通りにより坂道は分断され、中落合二丁目の一部が残るだけです。名称の由来は不明ですが、この坂にゆかりのある村人の名をとったものと思われます。

## ④ 見晴坂

一〇〇m

上落合と中落合の境から、中落合一丁目七と二一番の間を北へ上る坂で、六天坂の東に並んでいます。いまこの坂上に放射七号線（新目白通り）道路が開通しましたが、昔は一帶の水田で落合螢の名所であったそうです。「江戸名所図会」にも落合の螢を「此地の螢狩りは芒種（ぼうしゆ）の後より夏至の頃を盛りとす。草葉にすがるをばこぼれぬ露かとうたがひ、高く飛をばあまつ星かとあやまり、遊人暮るゝを待てここに逍遙し壯観とす。夜涼しく人定り風清く月清朗なるにおよびて、始めて帰路をうながさん事を思ひ出さるも一興とやいはん。」とその田園風趣を賞美しています。



## ⑤ 六天坂 100m

上落合と中落合の境通りから、妙正寺川北岸中落合一丁目六と二番の間を北上する小坂で、坂上は環状六号線（山手通り）道路へ出ます。このあたりも二た昔ほど前までは雑木山で、坂上に一本杉の古木があり、樹下に第六天の小祠が建っていたのが坂の名になったといわれています。言い伝えによると、その第六天の仏像は行人僧が坂側に住みついて祀ったそうですが、その後の所在は明らかではありません。仏典によれば「第六天は欲界六天の第六番で最高所とされ、この天に生まれたものは、他者の樂事をもって自在におのれの樂とするこ

とができるので、別称を他化自在天ともいう。」とあります。

## 一〜八の坂

二〇〇九年に新宿区が道路通称名を一般公募し六七路線の道路通称名が決定、蘭塔坂通り（二の坂）もその一つとして標識が建てられました。東京では番号のついた坂が順に並ぶ例は他になく、結果的に珍しいものになっています。関東大震災後、中落合三丁目一帯のいわゆる目白文化村とともに南の台地上の宅地化が進み、一の坂をはじめとし、八の坂まで名前が付けられました。

## ⑥ 一の坂

山手通りから中井二丁目四番地と一一番との間を北に上る坂。別名、市郎兵衛坂。『豊多摩郡誌』には「市郎兵衛中井道字不動谷と前谷戸との間にあり。」とあります。

## ⑦ 二の坂

中井二丁目一一番地と一二番地との間を北へ上る坂。二の坂上右側に庚申塚と、墓石や複数の供養塔が並立していたことから昭和初期の頃より蘭（卵）塔坂と呼ばれていました。

## ⑧ 三の坂 90m

中井二丁目一二番地と一九番地との間を北へ上る坂。

## ⑨ 四の坂

中井二丁目一九番地と二〇番地との間を北へ上る坂。林芙美子記念館と四の坂は「みどりの新宿30選」に選ばれています。

## ⑩ 林芙美子記念館内の坂

通称 男坂・女坂

日本一短い男坂・女坂



### 林芙美子旧居（林芙美子記念館）

小説家林芙美子（一九〇三〜五二）が、昭和一六年（一九四一）八月から昭和二六年（一九五一）六月二八日に亡くなるまで住んでいた家で、現在は新宿区立林芙美子記念館として公開されています。芙美子は落合を愛し、昭和五年（一九三〇）に杉並の堀の内から移って以来、途中二度の引越をささみ、亡くなるまで足かけ二二年間落合の地に暮らしました（初め上落合三二一六・七、昭和七年から中井二二四・二二、同一六年から病没まで中井二二〇・一）。この家は、昭和一四年（一九三九）に島津製作所所有地を購入したもので、芙美子の意向を強く反映させ、山口文象が設計したものです。数奇屋造りの平屋建てで、当時は建坪の制限があったため、芙美子名義の生活棟と、夫で画家の緑敏名義のアトリエ棟の二棟を建てました。ここでは代表作「うず潮」「晩菊」「浮草」などが執筆されました。

記念館の中にも、男坂、女坂と言われた坂があります。坂学会では、昨年日本一短い男坂・女坂に認定しました。

#### ⑪ 五の坂

中井二丁目二〇番地と二四番地との間を北へ上る坂。

#### ⑫ 六の坂

中井二丁目二四番地と二五番地との間を北へ上る坂。

#### ⑬ 七の坂

中井二丁目二五番地と二七番地との間を北へ上る坂。

#### ⑭ 八の坂

九〇m

中井二丁目二七番地と二八番地との間を北へ上る坂。

#### ⑮ ごりよう坂

中井二丁目三〇番地と二八番地との間を北へ上る坂

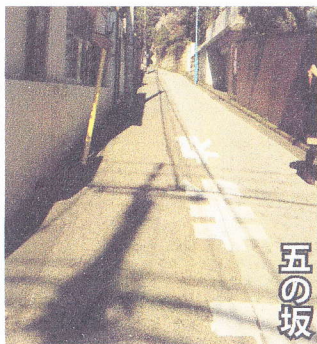
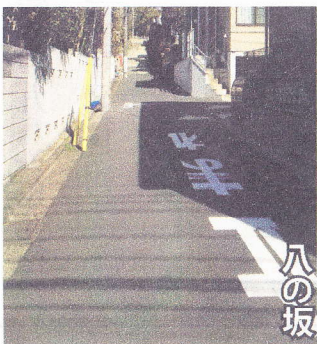
### 中井御霊神社

落合台地八の坂をのぼり切ったところが中井御霊神社です。創建は不明ですが、古くから落合村中井の鎮守でした。祭神は仲哀天皇・応神天皇・仁徳天皇・武甕槌神の四柱。拝殿内には、江戸時代に奉納された備射祭絵馬（区指定文化財）が掲げられています。

### 妙正寺川

妙正寺川は、杉並区の妙正寺池を水源に持ち、途中で江古田川を合わせ、新宿区内で神田川（高田馬場分水路）に注ぐ、延長九、七キロメートルを有する一級河川です。

妙正寺は文和元年（一二三二）に創建されたとされる日蓮宗の寺院。なお、中井周辺の川の北側の崖を、このあたりでは「バツケ」と呼んでいました。「ハケ」とも呼ばれ、湧水のある崖地のことです。



参考資料

- 『新宿区史―区政成立五〇周年記念―』第一巻 新宿区 一九九八年三月発行
- 『東京の坂道』石川悌三著 新人物往来社 一九七一年三月発行
- 『新宿の散歩道』芳賀善次郎著 三交社 一九七二年四月発行
- 『旧鎌倉街道 探索の旅 中道編』芳賀善次郎著 さいたま出版会 一九八一年発行
- 『対話で学ぶ 江戸東京・横浜の地形』松田磐余著 之潮 二〇一三年発行
- 『東京「スリバチ」地形散歩』皆川典久著 洋泉社 二〇一二年二月発行
- 『地学のガイド』コロナ社 一九八〇年発行
- 『目白文化村』都市叢書 一九九一年発行